

Web Usability & Accessibility

24 日本放送協会 (NHK)

http://www.nhk.or.jp/

「わかりやすく」をもっと重視して 情報整理と新技術の導入を図るべき

日本放送協会(NHK)では、テレビ放送開始50周年記念をテーマに、特別番組編成を行い、視聴者の耳目を集めた。これらの番組紹介や過去の番組リクエストなどで、NHKのWebサイト利用者が普段より多かったことだろう。デジタル放送でも注視されるユーザビリティ&アクセシビリティについて、濱田・石田両氏に同サイトを視聴してもらった。

Usability (解説/石田直子)

図1 NHKトップページ

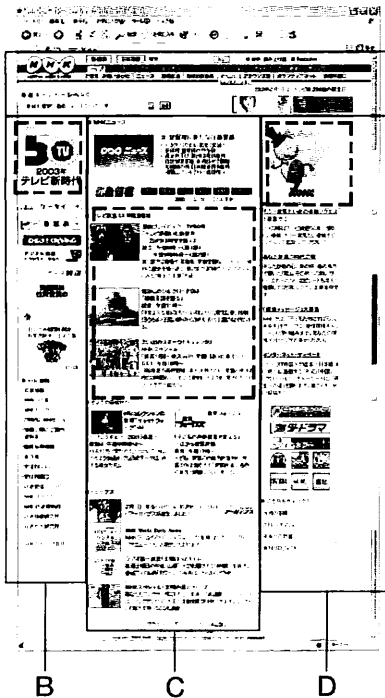


図2 放送開始50周年番組ページ

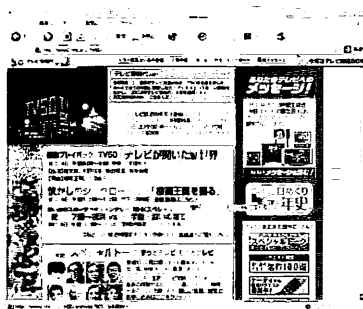
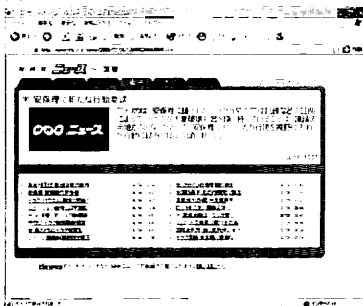


図3 NHKニュースのページ



トップページはサイトの全体構成や目的を伝える役割があります。そのためには、Webページという限られたスペースに、情報を効率よく整理して配置する必要があります。その上でオリジナリティを出したり、一部の情報を目立たせたり、といったメリハリを出していかなければなりません。

今回は情報整理の面から、NHKサイトのトップページを徹底的に見ていきましょう。

【特集ページと通常コンテンツのバランス】

今年は放送50周年ということで、筆者が見ている2月上旬のNHKのトップページは、50周年記念番組へのリンクでいっぱいです。図1の点線で囲んである部分は、すべて同じ特集ページ(図2)へリンクしています。

特集ページへのリンクは悪いことではありません。しかし、全体像をつかめるようにするためには、もう少し特集ページリンクに割く面積を控えたほうがよいでしょう。また、言葉や画像が違うのに同じページへリンクするのは、入り口と結果の因果関係が作れないため、混乱の原因になります。

【情報の配分】

トップページの構成を大雑把に分けると、4つのエリアに分かれます。

- A) ヘッダエリア
- B) 左コラム
- C) 中コラム
- D) 右コラム

A) ヘッダエリア

サイトの主なコンテンツへのリンクが並び、グローバルナビゲーションエリアともなります。グローバルナビゲーションである以上は、サイトのどこへ飛んでも、同じものが表示されなければなりません。しかし、実際に各番組ページを見てみると、このヘッダエリアが継承されていないページが目につきます。

B) 左コラム

画面の下のほうには、「NHK情報」という一連のリンクが並んでいます。サイトメニューのより詳細な部分を表示するエリアであるようです。一方、上部には特定の番組へのリンクがいくつか表示されています。これはサイズも微妙に違いますし、デザインもまちまちです。番組へのリン

クを表示するエリアとして、ある程度統一基準を作れば、立派なメニューとして成立しますが、これではただの広告としてみなされてしまいます。

また、このリンクのために、左コラムの提示する情報はどんな種類なのか曖昧になってしまいます。

C) 中コラム

メインの情報エリアです。中コラムはある程度の量の情報を提供したいコンテンツが入ります。「ニュース」、「テレビ放送50周年関連番組」、「今日の番組」から、「トピックス」の順に並んでいます。それぞれは情報としては悪くはないのですが、順番に並べてしまうと、どこかちぐはぐな印象を受けます。「トピックス」は言葉として曖昧なので、別のカテゴリ名称にして、ピックアップするような意味づけにしたほうがよいでしょう。

D) エリア

「募集中」として注目を集めたい情報グループがあります。その下にあるアイコンまたはバナーのようなエリアは、情報グループとしての意味づけ、情報量、表現の仕方ともにまちまちで、広告、またはノイズになってしまっています。

----- 評価 -----

- サイトの目的が伝わること ★★★
何かがそのサイトの狙いなのかをトップページで表現します。
- 学習しやすさ ★
すぐそれを使い始められるように、全体像と次に何をすべきかを伝えています。
- 効率性 ★
デザインや構成が統一されていると作業の効率性が上がります。
- 記憶しやすさ ★
上記と同じく、デザインや構成が統一されていると記憶しやすくなります。
- エラーを少なく ★★★
エラーはないほうがよいのですが、避けられないものでもあります。回復方法が明確になるように。
- 満足を与える ★★★★★
ユーザーにとって楽しかったり、有益であったりというメリットが必要です。

総合評価 ★★

全体デザインが統一されておらず、番組ごとにまちまちのページを作っています(図2、3)。トップページはそのポータルという位置づけでしょうか。しかし、トップページへの戻りリンクなど、最低限のナビゲーションは統一しておくべきです。



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
URL <http://www.udit-jp.com>
「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

Accessibility (解説/濱田英雄)

図4



図5



図6

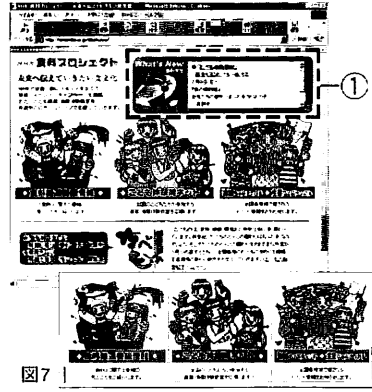


図7

図8



図9

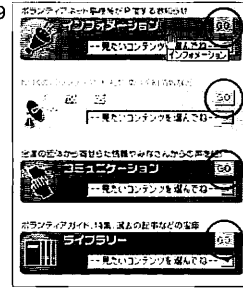
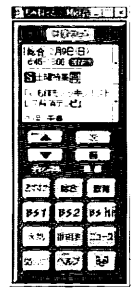


図10



サイトにはボランティアネットや福祉のコーナーなど、アクセシビリティに関係のあるものもあり、今回はいつもより少し厳しいチェックとなっているかも知れません。

また、新しい技術も使われており、なかには対応の難しいものもありますが、アクセシビリティへの配慮は感じられます。

【トップページ】

●プルダウンメニュー(図4)

この番組メニューのプルダウンメニューは、165項目もあります。50音順にまとまっていますが、音声での選択はかなり厳しい状況です。このような場合、別に1ページ作って索引としたほうがわかりやすいと思います。

●ALT属性のつけ方(図5)

ここだけではありませんが、画像のALT属性にテキストタイトルと同じものが入っているため、タイトルを2度読みしてしまいます。特に入れる言葉がなければ、全角スペースや「画面写真」などとしたほうがよいでしょう。

【食料プロジェクト】

●内部フレーム(図6)

右上にあるページのなかに作られたフレーム(図6-①)ですが、これまでの音声ブラウザでは読めませんでした。しかし、技術の進歩により、「Home Page Reader 3.01」などでは読み上げられるようになりました。ただ、どの程度の人がこうした新しいバージョンに乗り換えたかわかりません。重要な情報をこの形で掲載するのは問題があります。

●デザインテーブル(図7)

レイアウトテーブルではよく起こる問題ですが、このようなテーブルの区切り方をすると、音声ブラウザではイラストのALT属性だけを左から読み、次にタイトルだけを横方向に読み、次に説明だけを横に読むことになり、上下の関係がわかりにくくなります。レイアウトテーブルの組み方には配慮が必要です。

【NHK福祉関連番組のご案内】

●色の変更(図8)

このコーナーでは背景色と文字色、文字サイズを変更できる仕組みが、下のフレームにあります。これらはブラウザの設定でもできますが、弱視の初心者にとっては参考になりそうです。しかし、配色の組み合わせは疑問が残ります。

【NHKボランティアネット】

●プルダウンメニュー(図9)

右下にあるプルダウンメニューの「GO」実行ボタンが、選択メニューより前にあります。一般的には選択後に実行ボタンが配置されていたほうがわかりやすいでしょう。

【ひらけ! ch@ねっと】

●新技術(図10)

このコーナーではリモコンの形をしたウィンドウが表示され、そのボタン操作でサイト内を移動する仕組みになっています。

ただ基本的には、この形式のメニューは音声では操作できないと思います。試しに「Home Page Reader 3.01」で操作してみました。

ボタンを押すたびに新規の音声ブラウザが立ち上がり、わかりにくいばかりでなく、これを繰り返すと最終的にはフリーズしてしまいました。

新技術を使うことを否定するわけではありませんが、サイトのどこかにアクセシビリティに関する注意や対応方法などを書いたページが必要だと思います。

----- 評価 -----

画像にはALT属性をつけること ★★★★★
ALT属性は大体付いていると思います。

リンクボタンになっている画像のすべてにALT属性を使ってリンク先を明確にすること ★★★
リンクとわからないものや、ALT属性のつけ方に問題があるところがあります。

日本語のページでは外国語の乱用はせず、誰にでもわかるように配慮すること ★★★
多少ありますが、それほど問題はないと思います。

色によって伝えられる情報は、色がなくても情報が伝わるようにすること ★★★★★

見たところ、色のみによって伝えられている情報はないようです。

HEADにつける<TITLE>は内容がわかるように適切なタイトルをつけること ★★★
一部で同じタイトルのページがあります。

レイアウトのテーブルは、情報が適切に音声ブラウザで読み上げられること ★★★
一部で適切に読まれないところがあります。

総合評価 ★★★★★
音声に対応できない新技術が一部で使われています。

春だ、花粉だ、桜がさまで

NM調査 地上デジタル06年組の地方民放局経営者調査
「戦略と設備計画と新事業展望と経営方針等を聞く」

地上デジタルへの提言

放送機器メーカー「06年組地方民放局の設備投資」提案

危険だらけのケーブルインターネット

「ケーブルセキュリティ・ガイドライン」「プロバイダ責任制限法」をマスターせよ

ネットセキュリティだけに目を奪われていないか?

ケーブルTV「ファリシティー・リスク」再点検ポイント30!

「NHKアーカイブス」に続けと構築される民放アーカイブ

日テレ・東海テレビ・関西テレビの最新報告

続々と商用突入! ケーブルVoIP

関西17社連合・富山ケーブルテレビ協議会などを追う

運億人のISSCC(国際固体素子回路会議)レポート

「スケール(縮小)しても、トランジスタ数を増やせない時代が来る」

BETWEEN

■世の中、八方塞という言葉があるが、このところ八方どころか全方位が塞がっている感じが、すべて受身。これでは周りの者に迷惑をかけるばかりだ。自暴自棄の気力さえも湧いてこない。もちろんいい考えなんて浮かんでくるはずがない。でも、なんだか、ぼーとしていて、北朝鮮から何か飛んでくような予感がする。あるいは、新幹線が爆破されるような予感がする。これは明らかに何かに怯えている証拠だ。何に怯えているのだろうか。小さくなった心に聞いてみた「それはね、親指シフトで文字を入力できなくなったからですよ。親指シフト中絶にかかっているのですよ」。私は2月10日に親指シフトを離脱した。別れられない私。私の隣に親指シフトのキーボードが転がっている。無気力キーボード中絶説。まさかね。

指が離れたキーボード 音もなし(太行)

■アナ妻の現場を見た。青梅沢井地区だったのでチャンネルの再設定のみ。作業は簡単、アッという間、これでデジタル化への動きが見えた。改めて「地上デジタル放送は何を目指すのか」を考えたい、と思っていたら、そのものズバリシンポジウム案内が届いた。多くの業界人が集まるNHK放送文化研究所主催のものだ。プログラムを見ると、なかなか野心的なシンポが並ぶ。中でも、総務省の中田睦・大臣官房企画課長と経産省の松井哲夫・情報政策課長が発題する目録は興味津々。この2人にNTTの和守博美・副社長と松下電器の楠本好明・常務取締役が加わる。NHKからは切れ味鋭い和崎信哉・デジタル放送推進室局長が出る。聞きたし。4月4日(金)13時から、これまた恒例の海老沢勝三・NHK会長の講演で始まる。会場はNHKホール。(よ)

■テレビが満50歳になった。今年夏には、8月28日に開始した日本テレビがNHKに続いて50年を迎える。放送開始前年の1952年、予備免許が先に降りていたのは日本テレビだった。国会に事業計画等の承認を得なければならぬ。NHKは、その分遅くなったそうだ。その後、NHK技研を中心とした技術開発と正力氏率いる日本テレビの「街頭テレビ」で、テレビは戦後の国民に夢を与え、爆発的に広がった。そして、50年後。経済的戦後のような現在の日本で、新しいテレビ、デジタル放送は何ができるのか。番組を見ていて局の判別がつくのは、NHKとテレビ東京だけ。日先の視聴率にばかり捕われて、低級なギャグや素人のイザコザ

ばかり流している場合ではないと思うのですが。(住)

■「笑門には届来る」というが、国際科学振興財団の「心と遺伝子研究会」が笑うことが健康に良いことを体験する会を、「もみじ飯頂」で一世を風靡したB&Bの漫才コンビを招いて開いた。遺伝子は生存に必要な情報を親から子へ、子から孫へと伝達するだけではなく、外界からの刺激によって遺伝子スイッチがON/OFFすることで、体を正常に維持する機能があるそうだ。研究会は、ストレスや感情が体にどんな影響を及ぼすのか、遺伝子スイッチという視点から研究している。体験の結果、ステージを見た膠原病患者たちの血糖値が下がったというから、面白い。ならば笑わねばと勇んでみても、愛想笑いも苦笑い、照れ笑いに失笑、拳句の果ては嘲笑をばう始末。いやはや笑うのも難しい。(ふ)

■映画「戦場のピアニスト」(監督:ロマン・ポランスキー)を見た。ベテラン監督作品らしい深みのある内容だったが、とくに「音」への細やかな配慮に感心した。音楽挿入のタイミング、臨場感を高める銃弾や爆弾の炸裂音だけでなく、日常の物音や静寂までもが作品に緊張感を与えている。さらにTHXによる立体的な音響が、観客を戦場にいるかのように錯覚させる。ひと昔前に比べて、「ホームシアター」が身近なものになってきたと思う。しかし、音質が向上しても音量を気にせずにいられない集合住宅では、劇場と同じように作品に入り込めるだろうか。今号表紙で紹介したヘッドホン型機器や指向性スピーカーなどが普及すれば、さらなる市場拡大が見込めると思うのだが。(0)

■大邱の地下鉄大災では、避難する乗客数百人が殺された。駅構内の階段でもガス中毒による死者が発生したという。炎や有毒ガスとともに、人の多さが「凶器」となった。通勤ラッシュのような人込みは、災害時の危険性だけでなく、今冬猛威を振るったインフルエンザの感染が拡大する要因にもなっている。また、新聞も読めないほどの混雑は、通勤・通学者の貴重な時間を奪うという、大きなデメリットを生み出している。人込みがもたらすようなリスクや社会的・経済的損失について、行政、企業はあまりに軽視しすぎている。先日、ロンドン中心部で通行車両に対して渋滞税が導入され、交通量が4分の1減少するという効果が出た。人込みも交通渋滞のように外部不経済の一つとして、行政・企業責任の対象とする必要があるだろう。(W)

テーマ

デジタル放送時代における表示ディスプレイの画質研究(第1回)
「プラズマテレビと液晶テレビの画質検証」

プラズマテレビと液晶テレビに、同じコンテンツを配信・表示して比較検討。画質専門家に評価を聞き、メーカーの画質責任者を交えての検討・討議。

日本画質学会 第9回研究会

*詳細はホームページに掲載
<http://www.newwww-media.co.jp/>

- 開催日時(案)
3月28日(金) 14時~17時30分
- 開催場所
東京情報大学 ホール
- 参加定員
先着50名
- 参加費
有料
- 参加協力メーカー
PDPおよび液晶テレビメーカー多数
- 参加申込み・問合せ先
日本画質学会・事務局
(株)ニューメディア内 担当:古山

TEL.03-3542-5231
FAX.03-3545-5843

NEW MEDIA 2003.4

2003年4月1日発行4月号第21巻第4号通巻239号

発行・発行者/(株)ニューメディア 104-0061 東京都中央区銀座2-12-5 phone: 03 3542-5231/代 fax: 03 3545-5843
 発行人/天野昭 編集人/吉井勇 印刷所/大村印刷(株) 定価1100円 本体1048円+税52円) 郵便料国内・海外実費、
 Web <http://www.newwww-media.co.jp> 郵便振替番号 東京00130 6-77902
 Volume21 Number238 April 1, 2003 © New Media Inc. All rights reserved. New Media is published by New Media Inc.
 2-12-5 Ginza Chuo-ku, Tokyo, Japan 104-0061
 Subscription price: ¥23,000 (Asia), ¥25,000 (U.S.A. Europe), mailing fee included.
 Please send subscription order to New Media by facsimile (81 3 3545-5843).
 発行・出版新媒體股份有限公司版權所有。新媒體月刊由新媒體股份有限公司發行。
 地址: 〒104-0061 日本東京都中央区銀座2-12-5NF大廈 新媒體股份有限公司
 全年訂閱(含郵資)價格: 亞洲—23,000 日元 美國・歐洲—25,000 日元
 歡迎利用傳真電話: 81-3-3545-5843 郵政劃撥帳號: 東京00130-6-77902